

縮小社会研究会 第 80 回研究会



日時：2024年6月15日（土） 19:30～21:00、オンライン開催（Zoom）

お金といってもしよせん紙に印刷されたもので、一万円札の原価は22円と言われている。国際的には米国のドルが基軸通貨になっている。1971年までは米ドル札は金と交換できたが、今は交換できない。よって、米国はいくらでもドル札を印刷することができる。金の価格も恣意的な面もあるが、少なくとも金と交換可能な紙幣にして欲しい。さらに、国連が世界通貨を発行してほしいものである。

ドル離れ

—ドル基軸通貨体制を背景とする米国制裁外交への挑戦—

講師： 仲野晶子さん（ジャーナリスト）

講演要旨： 世界的に米ドル離れの兆しが現れている。それを牽引する要因と考えられるのが、①米国の金利上昇（16年ぶりの高水準の金利による国債費増加、それに伴う米国財政赤字拡大の懸念）、②SWIFT（国際的送金インフラ）からロシアの銀行を締め出すという経済制裁措置が招いた「BRICS+による対抗手段としてのドル離反」、そして③覇権を狙う中国による人民元の国際化政策とドル依存体制から脱却を志向する動きである。米国の経済弱体化や信用失墜（覇権パワー乱用、世界的金融危機の震源地、挑発的軍事攻撃、等々）を反映して米国覇権終焉さえ予測されるようになり、基軸通貨ドル終焉も問われるようになった。

米国の外交は経済制裁を多用することで知られている。特にドル覇権の有利性を活かした金融制裁は顕著である。また、準備通貨発行国である米国は基本的に自国の利益を優先させて金融政策を立案・実行するので、世界経済はその政策に左右されて不安定化するリスクに晒される。それらリスクを軽減すべく、BRICS+はドル依存体制からの脱却を狙う。中でも世界第二位の経済大国に成長した中国は意欲的で、米中勢力伯仲の時代を迎え、ドル基軸通貨体制に挑戦する動きを見せている。

研究会では、基軸通貨ドル体制の特性と課題、ドル依存体制からの脱却を志向する新興・発展途上国の動き、そして基軸通貨・共通通貨の条件について考察した上で、ドル離れが基軸通貨ドル終焉にまで急進する可能性、中国人民幣が基軸通貨ドルの地位を脅かす国際通貨になる可能性、そして日本経済への影響などについて考える。

仲野晶子さんの略歴： 米国大手金融機関 J.P.モルガン・チェース銀行バイス・プレジデントを経て、現在は在野のジャーナリストとして活動。シンクタンク研究理事。青山学院大学大学院修士課程修了（国際政治学修士）。

zoom の URL： <https://us02web.zoom.us/j/82977771821?pwd=Q0ZSL3pnSlNaQjZsK29RcXZXNit1Zz09>

パスコード： 548632 ミーティング ID： 829 7777 1821

参加費：無料、非会員は500円

参加登録：会員は不要。非会員の方は松久 (h.matsuhisa@shukusho.org) まで連絡願います。